

令和4・5年期 神奈川県青少年問題協議会 審議結果まとめ

【審議テーマ】

これからのひきこもり支援について
＜ひきこもり支援におけるリアルとバーチャルの最適な
組み合わせによる居場所及び自己肯定感をはぐくむ
支援のあり方について＞

1 令和4・5年期 協議テーマの設定について

● これからのひきこもり支援について

<ひきこもり支援におけるリアルとバーチャルの最適な組み合わせによる居場所及び自己肯定感をはぐくむ支援のあり方について>

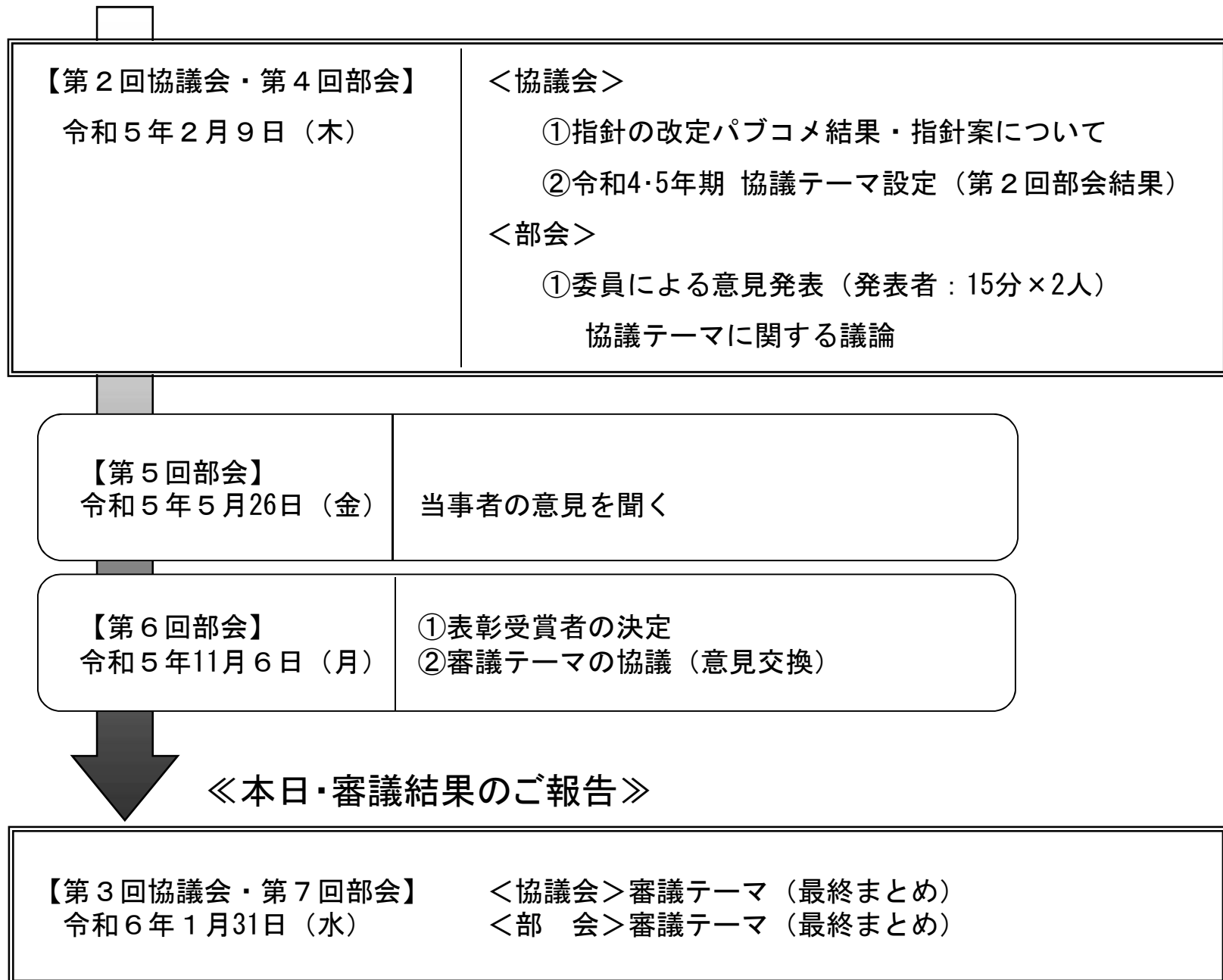
●令和4・5年期協議会・部会では、子ども・若者に関する今日的な諸課題を反映したテーマについて、様々な視点から県子ども・若者行政に係る検討を行い、調査協議の内容を県の施策立案にかかる参考(重要)として活用する。

●これからのひきこもり支援について

～ ひきこもり支援におけるリアルとバーチャルの最適な組み合わせによる居場所
及び自己肯定感をはぐくむ支援のあり方について ～

- ・若者のひきこもりを長期化させないため、行政や地域における支援のあり方について検討する。
- ・人との対面が困難なひきこもりの子ども・若者の居場所を、リアルとバーチャルの両面から支援のあり方について検討する。
- ・外に出ることが難しい当事者への新たな支援の形の検討
(デジタル技術を活用した相談窓口の周知や、メタバースなどオンライン上の居場所を作るなど)
- ・自分の将来について希望を持てるよう、自己肯定感をはぐくむことも視野に入れる。
- ・全ての当事者が困難を感じていて、支援を必要としているわけではないといった視点も重要である。
ひきこもりをネガティブに捉えるだけでなく、当事者が投げかけてくれる社会の見方やあり方があり、
社会が当事者から学ぶべきことがある。

2. 審議の経緯



3. 審議結果

【審議結果①】

支援につながっていないひきこもり当事者とその家族への効果的なアプローチについて

→当事者が関心があることを楽しめる、対面でもオンラインでも繋がれる、誰でも目的なく参加できるなど、当事者の意思や自由を尊重しながら、社会参加のきっかけを作れるアプローチが望ましい。

<部会での主な意見>

- ・ひきこもり当事者は支援につながることに消極的である。
- ・当事者が関心があること、好きなことを通じてならハードルが低くなり、つながりたいと思ってくれる。
- ・ひきこもりの特性とコロナ禍の支援経験を踏まえて、対面とオンラインの複線的支援の検討が望まれる。
- ・目的なく、とりあえず行く場所があるとよい。集まった人とご飯を作って一緒に食べられて、Wi-Fiやコンセントが利用できる場があれば、おのずとその場での対面交流もオンライン交流もかなう。

<ひきこもり経験者からの御意見>

- ・ひきこもり当事者のための居場所という限定は、当事者にとって、かえって入りにくく感じる。ひきこもり当事者に限らず色々な人が集まる居場所は、今後増えたらよい。
- ・ずっと他者とかかわらずにいる当事者にとって、他者からアドバイスや声をかけてもらえることは嬉しい。

【審議結果②】

オンラインによる支援の課題について

→就労など目的のある支援はオンラインが参加しやすい一方、目的のないきっかけ作りの場をオンライン上にどのように作るかが課題である。

＜部会での主な意見＞

- ・従来型のキャリア講座、就職支援にハードルの高さを感じている当事者が少なくない。
- ・支援者が当事者の日常生活に置かれている二次元平面の中で支援をする形がとれるのではないか。
- ・支援者がかかわりをもとう、引き出そうとすることに対して、当事者は「対面の暴力性」を感じる。
オンラインの二次元平面であっても、他者と交流できることは嬉しい。
- ・目的なく集まり、その中で、自分が何をしたいのか、何ができるのかということに気づき、行動していく場が居場所であると考え、オンラインで無目的な場を作る難しさを感じる。
どのように作っていくべきかが課題である。

【審議結果③】

ひきこもり支援対象者のひろがりと今後の支援について

→ひきこもりは幅広い年代の問題になってきており、特別な問題ではなく、誰でもなり得る状況、生活問題である。
それを理解し、受け入れる社会構造に変えていくことが必要である。

＜部会での主な意見＞

- ・ひきこもりの概念が多様性を帯びてきており、非常に幅広い方々がいるため、全員に対して適切な支援を一律に用意するのは困難である。
- ・ひきこもりの問題は、いかに本人の意思を尊重しながら、本人の状態を鑑みながら、合意形成をしながら、社会的な包摂の道を歩むかということ。
- ・ひきこもり人数は増加しており、若者の問題から幅広い年代の問題になってきている。
もはや特別な問題ではなく生活問題と捉えたうえで、支援という対処療法ではなく、社会の構造そのものを変える必要がある。
- ・現在困っている方への支援は大切だが、その手前のひきこもりにならないような社会構造や、地域構造、家族体制を考えた施策が大切である。
- ・社会や地域の人が理解してあげられるよう、ひきこもりの理解を変えていくべきである。

4. 青少年課の主な取組

ひきこもり×メタバーズ事業



ひきこもり当事者を社会参加につなげるため、外出せずに気軽に参加できるメタバーズを活用して、青少年向けイベントを開催しています。

2月2日(金)～2月29日(木)にかけて、次回イベントを予定しています。

居場所事業

神奈川県 神奈川県ひきこもり地域支援センター

い〜ぱしよ

秦野 小田原
海老名 南足柄 紅葉坂

ひきこもりの状態から、何かを変えたいと思った。そんなあなたに、訪れてほしい。気持ちのよい、場所、仲間に出会ってください。

こんなときにも、外出するきっかけがほしい、な話も聞いてほしい、ひきこもり経験者の話を聞きたい、言葉以外のことで関わってみたい、困っていることを相談したい。

どのような場所？

- ・予約の必要はありません。
- ・費用を払って参加しなくてもよい場所です。
- ・話し合いと食料スタッフの声をかけてください。

開催日時	場所
1月 9日(祝) 13:00～16:00	工業都市存続センター (秦野市緑町 16-3)
31日(日) 13:00～16:00	交差点から市民センター UMSCO (小田原市栄町 1-1-27)
14日(日) 13:00～16:00	海老名市市民会館 (海老名市ゆめ町 6-3) ※当日は13:00～15:00まで開催いたします。
2日(日) 13:00～16:00	南足柄駅前どうぶつ会館 (南足柄市現本 403-2)
8日(金) 13:00～16:00	横浜立青少年センター (横浜西区紅葉ヶ丘 9-1)

【問合せ先】
神奈川県立青少年センター 青少年サポート課 045-263-4467
https://www.aief.kanagawa.jp/docu/ch3/index.html
※お問い合わせは、045-263-4467まで。

県内市町村と連携し、地域巡回型の居場所を実施しています。

令和4年度に試行し、令和5年度は月2回程度実施しており、今後2月14日に海老名市、21日に南足柄市、3月8日に横浜市で実施予定です。